



## いよいよ読書の秋。ここで一服

暑かった夏もようやく終わりを告げ、3年生はいよいよ本格的に進路の動きが出てきました。1、2年生は各種大会や新人戦が始まっています。勉強や進路に関して、部活動で大忙しだと思いますが、そんな時こそ、ちょっと一服。ここで落ち着いて本を読んで疲れた体や心を癒やしてみませんか。

今回は、この夏一番人気だった本とビブリオバトルについて紹介したいと思います。

### おもしろい本読んでるね！1年生朝読書より

1年生にこの夏に読んだ本を一言紹介してもらいました。その中で10人以上の生徒に読まれていたのが『キミスイ』でした。

#### 『君の臍臓が食べたい』 住野よる

##### 【一言紹介】

- ・この本で泣きました。
- ・この本は生きることの意味や大切さ、人間の在り方を教えてくれる本だと思います。私はこの本の中の「生きること、それは、誰かと心を通わせること」という文が一番好きです。余命がもう少しの人が言うからこそ、この言葉には重みがありますが、たしかにその通りだなと感じました。
- ・病気で寿命を告知された人も、健康に過ごす人も、いつ死ぬかは分からない。突然死ぬことだってある。そんな意味では、一日の価値はみんな同じであるという1人の女の子の考え方にすごく納得した。この本を読んでから自分は一日一日を振り返り、やり残したことはないか、楽しかったことはなにかなど考えるようにしている。このように、この本は自分の生き方や、身近な人の存在について考えられる一冊だと思う。

人一人に与えられた命の価値はみんな同じということ、命の重さ、大切さを改めて感じるができる。

二番人気はこの本です。

#### 『羊と鋼の森』 宮下奈都

##### 【一言紹介】

- ・大まかに言うと主人公の外村が調律師を目指している物語です。まだ少ししか読んでいないので内容はよくわかりませんが読んでいくにつれて内容が深くなって、主人公の外村の成長もみられる物語だと思うのでおすすめです。
- ・本屋大賞を受賞しており、また最近映画化もされた本です。ピアノの調律師さんが成長を遂げていく物語です。

この本は全国高等学校ビブリオバトル 2018in 仙台でも、紹介されていました。バトラーの紹介によると…

音楽とは聴くもの。しかし、「聴く」のにはなにも耳だけを使うわけではない。音楽は感じるものでもある。この本を読んで世界が広がった。自分は今、音楽を読んでいるのだと感じた。

## 全国高等学校ビブリオバトル 2018in 仙台

去る8月26日(日)、上記の大会に1年F組のK. Hさんが出場してきました。たくさんの観客を前に並み居る出場者とともに、1年生ながら精一杯頑張ってきました。会場は東北学院大学土樋キャンパスホーイ記念館。白亜の建物の中のおしゃれなカフェで行われました。Kさんに大会を振り返り、感想を述べてもらいました。

私にとってこの大会は、ビブリオバトルに挑戦すること自体が初めてで、しかも初めて話す場が東北大会で大きなプレッシャーと緊張でいっぱいでした。しかし、この大会から二つのことを学びました。

一つは、読み込むことが大切だということです。私が紹介した本は、瀬尾まいこさん作の『僕らのごはんは明日で待っている』という本です。この本は、大会以前から繰り返し読んでいたため、作者の表現の面白さに気づくことができました。二つ目は、自分の気持ちを伝えるためには工夫することが大切だということです。発表ではただあらすじを紹介して終わりではなく、「どんなところがいいのか」「どんな気持ちになれるのか」などを5分という制限時間中に伝えなくてはなりません。そのためには言葉だけでは足りず、ジェスチャーをつけたりした方がよいということを改めて実感しました。

今回のチャンプ本に輝いた人の発表は完璧すぎて圧巻で、私もそのような発表をしてみたいと強く思いました。この経験を生かし、次は校内のビブリオバトルにも出てみたいと思いました。また、他県の方の発表を聞き、いくつか読みたい本が見つかったので今後読んでいきたいと思えます。

最後に、私の練習を聞いてくださった先輩方、司書の平川さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

Kさん、お疲れさまでした。挑戦は成長につながります。一人でも多くの挑戦者によって本校でもますます熱いビブリオバトルが展開されることを期待しています。

**次回の校内ビブリオバトルは9月25日です。**

それでは、以下に大会上位者が紹介した本を「バトラーの紹介」をもとに紹介します。

### チャンプ本

#### 『月を盗んだ男 NASA 史上最大の盗難事件』

ベン・メズリック

タイトルの通り、この話は実際にNASAで起こった事件に由来します。宇宙飛行士になるための訓練を順調にこなしていた主人公。何事もなければ確実にチームの一員としてスペースシャトルに乗り込めるはずだったのに。

注目のポイントは

- 1、なぜ彼が石を盗んだのか。
- 2、どのようにして厳重な管理をくぐり抜けることができたのか。
- 3、なぜ道路が脱出の妨げになったのか。
- 4、なぜ一瞬で捕まったのか。
- 5、さまざまな小さなメッセージ。

NASAにはこれまでも、実は宇宙人と交信しているとか、不時着した宇宙船から宇宙人を捕獲したとか、さまざまな「噂」があります。そう考えるとなんだか気になってきますね。

### 準チャンプ本

#### 『ガソリン生活』伊坂幸太郎

ええっ、あのミステリーの巨匠・伊坂幸太郎さんが、車を主人公にした本を書くの?という驚き。さながらトランスフォーマーのように、緑のデミオには心があり、その車目線で物語りは進行していきます。

たくさんの車でいっぱいのショッピングセンターの駐車場、「そこにボクが停まる場所はあるのかな。」という描写には「一人になるのが怖い」という心情が表れているようで、なんだかとても共感しました。人間の荒っぽい運転に仕方なく従うデミオ。ガソリンという化学物質ゴチャゴチャの液体を飲み込むデミオ。それはなんだか人間関係のようで、でも、やっぱりミステリーなんです。ええっ!?